

地震が起きたら高台へ避難を！

「災害ボランティアから学ぶ、防災と災害への備え」
講師 災害救援ネットワーク北海道 代表 山口幸雄氏

ボランティア講座

「災害ボランティアから学ぶ、防災と災害への備え」

講師：災害救援ネットワーク北海道 代表 山口幸雄氏

ボランティア講座を開催

3月13日（水）に様似町中央公民館2階小ホールにて、ボランティア講座「災害ボランティアから学ぶ、防災と災害への備え」を開催いたしました。災害ボランティア歴30年以上の災害救援ネットワーク北海道の山口幸雄代表を講師に招き、災害ボランティアの理解を深め、防災への意識を高めることを目的に、ボランティアさんや自治会役員、地域住民を対象として行われました。

地震が起きたら高台へ避難を！

講演では震災直後から岩手県南三陸町の冠水した道路や津波に流され倒壊した建物などの映像を上映しながら被災地の様子を説明していただきました。

東日本大震災では、予想を超える範囲に津波が押し寄せ、多くの被害をもたらしました。海沿いの住民に比べ、内陸の住民は津波に対する危機感が低く、高台へ避難しなかった為、多くの方が津波の被害に遭いました。海から離れているから大丈夫と思わず、とにかく地震が起きたらすぐ高台へ避難して下さいと強く訴えていました。

ボランティア講座は、歳末たすけい募金の配分金を財源として開催しました。



地域が良くなれば、 町が良くなる

山口先生は講演の中で地域が良くなれば、町が良くなる。日頃から町民で集まり、いざという時のために話し合っておくことが大切です。防災への備えは、個人から地域へ、地域から町へと広がっていかなくてはなりません。町民一人ひとりが防災意識を高め、安心・安全な街づくりを地域から実践してほしいと話されました。



安心・安全の

街づくりを目指して

社会福祉協議会では、皆様のご協力を得て、「誰もが安心・安全に暮らすことのできる福祉のまちづくり」を推進しておりますが、特に地震、津波などの災害に対しては、一人ひとりの日頃からの備えが大切だと考えます。そこで、自分がどこを目指し避難すればよいのか、どのような備えが必要なのかを日頃から考えておきましょう。一人ひとりの防災意識を高め、みんなで力を合わせて、安心、安全の街づくりを目指していきます。



災害ボランティアセンターとは

災害ボランティアセンターとは、被災者を支援したいボランティアさんと支援を受けたい被災者のニーズの窓口となり、両者の要望を調整し、つなぎ、ボランティア活動を効率よく推進するための組織です。また、被災者のニーズの把握に努め、その解決を図るための機能を担っています。さらに行政では対応できない被災者住民の多様なニーズに柔軟かつ、きめ細やかに応えることができるのも災害ボランティアセンターの特徴です。

災害ボランティアセンターと

社会福祉協議会

社会福祉協議会では、平時よりボランティア活動の推進や支援を行っております。災害発生時には、災害ボランティアセンターを開設し、日頃からの住民とのネットワークを活かし、被災住民のニーズの収集、特にニーズを訴えることのできない高齢者や障害者、ひとり暮らし等の災害弱者のニーズを把握、整理を行うとともにボランティアの受け入れ、調整やマッチング活動を行います。